【成長戦略課題候補】

山梨県のフラッグシップとなる欧州系醸造用品種の選抜　～ワイン特性の解明～　（R5～7）

果樹試験場

背景・目的

温暖化 ⇨ メルロ、ｶﾍﾞﾙﾈ･ｿｰｳﾞｨﾆﾖﾝ：着色不良
シャルドネ：急激な減酸

高品質ワインの安定生産が難しい

ワイン業界からは
新たな欧州系品種の選抜の要望

【令和2～4年度：栽培・果実特性を解明】

検討品種
＜白ワイン用＞
アルバリーニョ、プティ・マンサン ｝ しっかりした酸味
＜赤ワイン用＞
シラー
テンプラニーリョ、タナ ｝ 着色良
ムールヴェードル

（海外の温暖な地域の品種）

（1）品種別のワイン特性の解明
品種本来のワイン特性が発揮される
最適な収穫時期は？
標高による違いは？

（2）新たな欧州系品種の生育と果実特性の解明
追加検討する品種
白：ピノ・グリ
赤：グルナッシュ、マルスラン

世界的にも注目される品種

本県のフラッグシップとなる特色ある欧州系品種を選抜

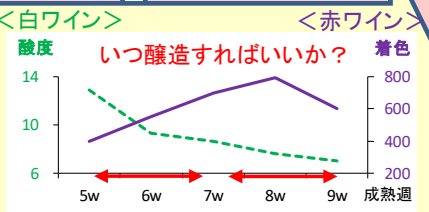
研究内容

１年目　２年目　３年目

（1）品種別のワイン特性の解明

1)生育地の気象条件がワイン品質に及ぼす影響
異なる標高でのワイン特性を解明するため、場内（標高440m）と明野試験地（標高710m）のワイン品質を比較

2)収穫時期別のワイン品質の解明
良いワインを作るのに最適な収穫時期を明らかにする
＜白＞酸度別に収穫
＜赤＞着色程度別に収穫



ブドウの成熟イメージ図

（2）新たな欧州系品種の生育と果実特性の解明

〇追加要望された新たな欧州系品種を導入し、生育や果実特性を解明
・生育・果樹特性の検討
・香気性・機能性成分の把握
・ウイルスフリー化

収穫が確保できれば醸造試験を実施

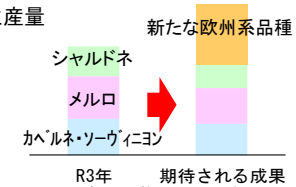
期待される成果

- 本県の気象環境に適した、新たなフラッグシップとなる欧州系品種を3品種選抜し、ワイナリーなどに普及していく。
- 醸造用の欧州系品種の生産量を増やして、「ワイン県」としての価値を高める。

＊県内の主要欧州系品種の原料ブドウ生産量

シャルドネ	93t
メルロ	105t
ｶﾍﾞﾙﾈ･ｿｰｳﾞｨﾆﾖﾝ	75t

（R3年度調査分、国税庁）



生産量の推移イメージ図

一部が新たな欧州系品種に置き換わり、
特色あるワインとして新たな山梨ブランドとなる